

日本環境リハビリテーション科学研究会

2018年度セミナー実施報告

Report of JSERS seminar in 2018

好永 美緒¹, 六車 亮太², 高本 雄太³, 岡本 昌大⁴

¹JSERS正会員, ²箕面市立病院, ³関西電力病院, ⁴訪問看護ステーション京さくら

Mio Yoshinaga¹, Ryota Muguruma², Yuta Takamoto³, Masahiro Okamoto⁴

¹ Membership of JSERS, ²Minoh City Hospital, ³Kansai Electric Power Hospital,

⁴Visiting Nursing Station KYO-SAKURA

キーワード: 災害, 障がい者, 避難環境

Key words: Disaster, Handicapped Person, Evacuation Environment

抄録

日本では各地で自然災害が発生し、これにより多くの人命が失われている。災害時の被害を最小限にするため、防災や減災のために平時からの準備が非常に重要である。今回、我々は「災害時における障がい者の避難環境」をテーマにセミナーとシンポジウムを開催した。プログラムとして、大阪市立大学都市防災センターによる防災の為に調査アンケートの結果と今後の課題について、災害時用障がい者トイレ開発における経過報告、Disaster Medical Assistance Team の活動の紹介、2018年に発生した西日本豪雨や障がい者の避難環境の報告を実施した。そして、災害に向けて各分野からの取り組みを把握しこれからの課題を検討した。

1. 開催目的

日本では各地で自然災害が発生し、これにより多くの人命が失われています。災害時の被害を最小限にするため、防災や減災のための平時からの準備が非常に重要であり、特に障がい者の災害対策が重要と認識しています。今回、「災害時における障がい者の避難環境」をテーマにセミナーとシンポジウムを開催しました。

2. 実施内容

2-1 実施日時: 平成30年11月17日(土)
12:30~16:30.

2-2 場 所: 大阪南港 ATC ホール会議室
後援: 日本環境リハビリテーション科学研究会.

2-3 プログラム

「防災の為に調査アンケートの計画とその実践」
講師: 大阪市立大学 佐伯 大輔 氏

「災害時用障がい者トイレ開発における経過報告」

講師: 大阪府立大学 小島 久典 氏

「DMAT の活動のご紹介」

講師: 大阪警察病院 上田 慶 氏

「西日本豪雨やこれまでの災害と災害時避難所における障がい者の避難環境」

シンポジスト: 兵庫大学 小倉 毅 氏

3. 実施概要

3-1 「防災の為に調査アンケートの計画とその実践」

セミナー最初は、大阪市立大学都市防災研究センターのメンバーであり、同大学大学院文学研究科の佐伯大輔先生より、「防災の為に調査アンケートの計画とその実践」についてご講義頂きました。

大阪市立大学都市防災教育センター (CERD) の活動内容について、実施されている防災教室の中

心にご紹介くださいました。防災教室では、地域の一般の方に向けて、災害時の対応・普段からの予防・体力増進・防災演習・対応訓練など幅広く活動されていることがわかりました。講義の中で、防災教室の参加前後のアンケートの結果検討と課題についてお話してくださいました。

アンケート結果から、防災教室を受けて、防災や避難に関する知識が増えたことがわかりました。しかし、それだけでなく、運動習慣が増えたり、「避難所までの移動への不安」が減少したり、といった結果が挙がっていたことが印象的でした。防災教室の講義の内容の幅広く、参加者もいろいろな方面の知識を得られ、それらが相互的に影響し、一度実施された体力測定や指導の内容からでも、運動習慣といった行動に繋がるのだということに感銘を受けました。

また、アンケートそのものの課題についてもお話していただきました。「防災意識が高いからといって、防災行動が起こるとは限らない」。知識から行動に移ることが大切であり、その「行動」も評価に含めているとのことでした。「障がい者」への適応に向けても検討を深めていく必要があることが分かりました。防災について幅広く勉強し、防災力を高めていくことが必要であり、地域の方が取り組みやすい入口として防災教室が大切だと学びました。貴重なお話をありがとうございました。

3-2 「災害時用障がい者トイレ開発における経過報告」

セミナー二つ目は、大阪府立大学の小島先生より、災害時の障がい者の避難状況について、また、障がい者用トイレの研究開発について報告して頂きました。

最初に、東北や熊本の震災における、障がい者の避難の実情についてお話してくださいました。障がいのある方は、一般の健常者でも苦勞する避難において、災害時の避難の困難さ（物理的な移動手段、災害後の自宅や屋外の移動環境）・避難後の生活の困難さ（心身的な脆弱性、トイレやベッドなど必要な資源、介助の必要性）を抱えていることを伝えてくださいました。実際の避難環境において、車椅子で三日三晩過ごすことになった方のお話や、仮設住宅に入れても住居がバリアフリーでなく苦勞が続いてしまった方のお話が心に残

りました。

避難場所のバリアフリー環境も気にされるようにはなっていますが、まだまだ不十分とのことでした。施設基準としては満たされていても、実際場面では足りない、という言葉だけでは今一つはつきりとはイメージできませんでした。しかし、小島先生の試算において、1000人を収容できる規模の避難所において、普段の生活において介護が必要方・車いすを使用している方が50人はいると伺いました。50人の要介護者に対して、1つや2つの障がい者トイレでは足りない、とようやくイメージが湧きました。

しかし、それに充足するだけのトイレは改修等で実施すること難しいため、障がい者用簡易トイレの開発を行っているとのことでした。実際に試作品を拝見して、避難環境での衛生面や使いやすさ・作成のコスト等いろいろな点に配慮して研究作成が進められていることを感じました。



図1 セミナーの風景

3-3 DMATの活動のご紹介

作業療法士で、DMATの業務調整員でもある上田慶さんに、DMATの活動についてお話ししていただきました。

そもそもDMATとは何か、そのチームの始まりと目的・活動はどのようなものかを、基本的なところからご紹介くださいました。お恥ずかしながら、関連単語など、知らない単語も多かったのですが、一つ一つ噛み砕いてわかりやすく説明して頂きました。

業務調整員としての仕事については、災害現場での医療以外の全てと話されておりました。医療機関との調整や現地での活動調整の他、隊員の食料品や水分の確保まで、多方面への配慮が必要と

されることをお話し頂きました。業務調整員さんのお仕事の内容を聞ける、貴重な体験をさせて頂きました。

発災直後から、全国で迅速に対応されていることや、それらの連絡が効率的に行えるように整備されていることを知りました。活動報告では、昼夜問わずの対応でありながら、分単位で詳細な記録がされており、隊員の方々が大変な環境でしっかりと業務に取り組まれていることが伺えました。



図2 シンポジウムの様子

3-4 シンポジウム

兵庫大学障害福祉学部社会福祉学科の小倉毅先生より、西日本豪雨災害へのボランティア活動報告を行っていただきました。

シンポジウムでありましたが、小倉先生のお話は興味深い内容ばかりで、講義のように聞き入ってしまうものばかりでした。豪雨災害時に決壊によって、施設が屋上まで浸水してしまったこと、迅速な対応で利用者さんの避難は済んでいたこと、一昼夜屋上で拘束されてしまい看護師さん・介護士さんが持ち出していた食料やオムツが役に立ったこと、倉庫に置いてあったオムツが膨張して天井を破っていたこと、2か月以上たってからようやく災害を話すことができた方のことなど、テレビのニュースだけでは知らなかった情報がたくさんありました。

小倉先生は、ボランティアに学生と向かわれる際、「自分たちができることを支援する」ように心がけていると繰り返しお話されていました。障がい者の方々が避難するためには、まず自分達が安全に避難・生活することが必要で、災害対策の知識を一層身に付けていかなければいけないと感じました。

4. 今後の取り組みについて

日本環境リハビリテーション科学研究会では、今後も引き続きセミナーを開催したいと考えております。様々な分野の専門家をお招きし、講演会を開催する予定ですので、皆様奮ってご参加ください。

参考文献

- 1) 住田幹男：災害時のリハビリテーション.リハビリテーション医学.1997
- 2) 中村雅彦：あと少しの支援があれば.ジエース教育新社. 2012
- 3) 佐伯大輔 他：災害対応訓練が防災知識や災害に対する意識に及ぼす効果.都市防災研究論文集.2015

(受理: 2019年2月27日)